

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 2 月 9 日 (2006.2.9)

【公開番号】特開 2004-245326 (P2004-245326A)
 【公開日】平成 16 年 9 月 2 日 (2004.9.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-034
 【出願番号】特願 2003-35877 (P2003-35877)
 【国際特許分類】

F 1 6 H 61/00 (2006.01)
 F 1 6 H 59/40 (2006.01)
 F 1 6 H 59/42 (2006.01)
 F 1 6 H 63/06 (2006.01)
 F 1 6 H 63/12 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 61/00
 F 1 6 H 59:40
 F 1 6 H 59:42
 F 1 6 H 63:06
 F 1 6 H 63:12

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 12 月 16 日 (2005.12.16)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 4 8】

【発明が解決しようとする課題】

上述した先発明に係る無段変速装置の場合、停車時若しくは極低速走行時に、この無段変速装置に組み込んだトロイダル型無段変速機の速度比調節を厳密に行なえる可能性がある。但し、運転者に違和感を与えない走行状態を実現する為の高精度の制御を低コストで行なう為には、出力軸 3 8、3 8 a の回転速度を、安価なセンサにより求められる様にする必要がある。例えば、アクセル、ブレーキ両ペダルから足を離れた状態で自動車を微速走行させる、所謂クリープ走行時に駆動輪に加えるトルクは、停止状態で大きく（最大に）し、車速が上昇するに従って急激に小さくする事が好ましい。更に、登坂路での停車時に、上記駆動輪に加えられたトルクが不足して車両が後退する様な状態では、上記出力軸 3 8、3 8 a の逆方向への低速回転を閾知して、この出力軸 3 8、3 8 a から上記駆動輪に伝達するトルクを増大させる事が好ましい。